

## VTuberで獲得する栃木来訪の契機 ～デジタルコンテンツが繋げる新たな出会いの可能性～

白鷗大学 経営学部・青崎ゼミナール 3年

小林彩由佳（こばやしあゆか） 今泉珠貴 男庭宏哉 坂齋智那

【概要】本県は若者の来訪者が少なく、認知度の高い観光資源が日光エリアや那須エリアに集中している。それに伴い他エリアの観光資源の認知度が低く、県内の周遊性も低い。そこで、認知度の高い観光地と低い観光地を繋ぐ広域観光周遊ルートを作成する。加えてVtuberを活用したプロモーションを展開することで、若者が本県へ来訪する契機の獲得が期待される。

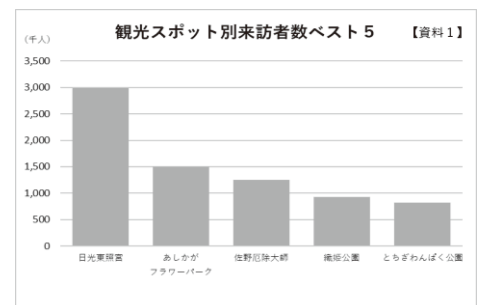
【栃木を元気にするには】本県は若者の来訪者数が少なく、観光資源の認知度に偏りがあるという課題を抱えている。そこで学生の考案する自治体を跨いだ広域観光周遊ルートのプロモーションにVtuberを起用し、産学官連携を推し進めたい。また本県の抱える観光資源の認知度の差を埋め、来訪者数増加による経済波及効果を生み出すことで地域貢献を可能にする。

### 【背景】

#### 1. 栃木県の現状

現在の栃木県の市町村別の観光客数は、日光市など県外からの認知度の高い市に比べて栃木市などへの来訪者は少ない。〔資料1〕より、本県の主な観光スポットの来訪者数は日光東照宮が突出しており、あしかがフラワーパークや佐野厄除大師とは2倍近くの差が見られる。また来訪の目的として日光市では「文化的な名所旧跡を見たいから」が挙げられるのに対し、その他の市町村ではそうした理由が挙げられないのが事実である。日光東照宮をはじめとした日光市以外にも本県の文化的な観光資源は存在する。しかし日光市以外の観光客の来訪の目的として「文化的な名所旧跡を見たいから」が挙げられないのは、そもそも観光資源の存在の認知が低いからではないかと考えた。

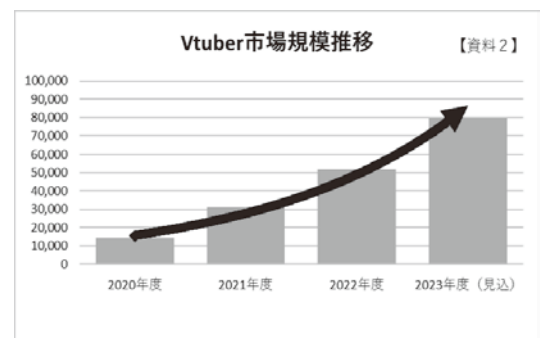
今後の栃木県全体の活性化を図るためにも、若者に本県の魅力を認知してもらう必要がある。そこで、新たなデジタルコンテンツとして急速に発展するVtuberの影響力を活かしプロモーションを展開することで、誘客の効果を模索する。



「令和元年栃木県観光客入込数・宿泊数推計調査結果」より作成

#### 2. Vtuberの勢い

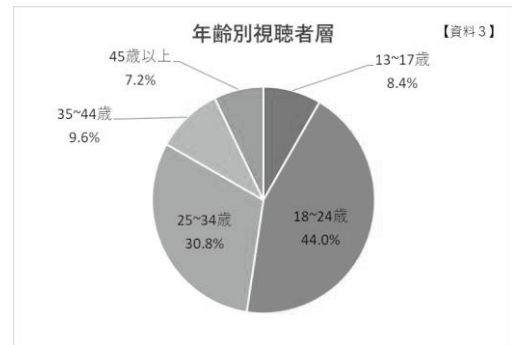
現在日本で注目されている新興コンテンツとしてVtuberという分野が存在する。これは仮想のキャラクターを使ってYouTube配信を中心とした活動を行う動画配信者を指す。一般的なYouTuberとは異なりアバターを持つVtuberは、企業とコラボしゲーム内でそのままVtuberのアバターが実装されたり、アニメ内で本人役のキャラクターとして登場したりする事例も存在する。このようにデジタルコンテンツに密接に関わっており、Vtuberはゲームやアニメなど多様なコンテンツのファンにも認知されやすいという特徴がある。またアニメのキャラクターは決められたストーリー・台本に沿って話し、動くが、Vtuberはリアルタイムで視聴者のコメントに反応しトークを展開する。同じ2次元のキャラクターとしての身体を持ちながらも、アニメのキャラクターとVtuberでは視聴者とのコミュニケーションの可能性に差がある。Vtuber



株式会社矢野経済研究所

「Vtuber市場に関する調査 2023」より作成

rの双方型コミュニケーションが可能な点は大きな魅力であり、多くのファンを惹きつける。〔資料2〕より、Vtuberの市場規模はここ4年間の間で急激上昇率を占めていることが分かる。「ホロライブ」や「にじさんじ」をはじめとしたVtuberを専門に扱う事務所も数多く設置されている。今後はメタバースとの融合も考えられており、デジタルコンテンツの最前線で活躍する可能性を秘めている。さらに〔資料3〕より、視聴者の年代層は13～24歳の若年層が半数以上を占めており、多くの若者がVtuberに関心を向けていることが分かる。栃木県の抱える課題と照らし合わせた際、Vtuberの起用には有用性があるのではないか。



ANYCOLOR株式会社

「2022年視聴者、視聴回数基準」より作成

### 3. プロジェクトとその効果

上記の考察より、我々は本県の認知度の高い観光地と低い観光地を繋ぐ広域観光周遊ルートを作成し、そのプロモーション展開としてVtuberを活用することを提案する。栃木県には各自治体に観光資源が点在しているが、日光や那須などに認知度が集中している。そこで有名観光地と無名観光地を結びつけたルートの作成を行う。しかし単なる観光地の組み合わせでは各観光地、特に有名観光地の魅力が減少してしまうリスクを孕む。こうした課題を解決するためにVtuberを活用する。Vtuberをプロモーションに起用し、Vtuber自身のYouTubeチャンネル内で有名観光地と無名観光地の魅力をどちらも発信してもらうことで視聴者の観光地に対する認知が拡大する。また各観光地にVtuberとタイアップした限定フォトスポットやボイスの設置をすることでファンの聖地巡礼が見込まれる。これらの効果により課題解決に繋がり、本県の観光地の周遊性を高めることができると考えた。Vtuberを起用し本県の魅力を発信することは、若者の来訪者の増加ならびに現在の観光客とは異なる層の取り込みを可能にする。

広域観光周遊ルートを作成する際にはストーリー性を持たせるために各観光ルートに軸を設ける。その軸にあった観光地をそれぞれ選定することで、時間をかけて本県を訪れてもらい一過性とならない提案を行う。VtuberおよびVtuberに惹きつけられるファンの特性に我々の考える軸を掛け合わせると、Vtuberと観光地の結びつきを生み出すことができる。知られざる本県の魅力だけでなくVtuber自身の新たな一面や魅力の発見も可能となり、来訪促進や周遊促進、再訪促進などが期待できる。

研究を進める過程で多くのVtuberとのコラボ事例や本県ならびに軸に関連したVtuber、本県を愛するVtuber探しを行った。現在進行形で急速に発展し注目されているVtuberを学生目線で選定し、我々が提案するように活用することは、他の自治体もまだ実現できていない。他の自治体に先駆けたプロジェクトは全国から注目を集めることができるはずである。

#### 【今後の展望と課題】

以上のプロジェクトを実施することで、栃木来訪の契機を作り出すと同時に今後自治体のプロモーション方法にVtuberという新たな選択肢を提示することが可能となる。また観光ルートを作成することで、まだ世間に知られていない本県の観光資源の魅力を引き出すことにも繋がる。しかしVtuberを起用するには多大なコストがかかると予想される。自治体に大きな負担がかかる可能性があり、地域住民にとっては観光客増加による生活環境の悪化などの影響を受ける懸念がある。これについては自治体間の広域連携によるコスト抑制や住民の意見反映などの対応をしていくことが求められる。またVtuberに認知度の低い観光地と関わるメリットがあるのかという課題や、ファンが本県に来訪する際の交通手段が少ないという課題も考えられるため、これらについても今後研究を重ねる中で検証及び解決策を思案していきたい。課題解決が進めば、自治体、Vtuber業界の連携によるお互いの活動の幅が広がり、新たな展望が開けていくと考えられる。